

## 学習者と教師のダイアリーを通しての授業認識

大島 晋

### 0. はじめに

ダイアリーとは日本語で日記を指す。一般的に日記というと、日々の出来事やそれに対する感想などをノートに記したものを指す。日記を付ける理由は様々であるが、一般的に公表するものではなく、きわめてプライバシー性の高いものである。

本研究におけるダイアリーは、いわゆる日記とは異なり、日々の出来事ではなく、名古屋大学での2005年度夏季日本語教育実習での日本語の授業中に考えたことや、感じたこと、また授業で自分が学んだと思ったことなどを日本語学習者（以下、学習者）に記述してもらっている。また、学習者だけでなく、日本語教師（筆者）も自らの授業中に考えたことや、感じたこと、また授業で自分が気付いたことなどをダイアリーに記述し、次の授業の際に教師と学習者で互いにダイアリーを交換した。

学習者と教師双方のダイアリーをそれぞれ参照しつつ、教師が学習者のダイアリーを通してどのように授業を認識したか、また学習者はどのように授業を捉えているのかを分析する。

### 1. 本研究の目的

外国語（もしくは第二言語）学習者のダイアリーに関する研究は、これまでもいくつかあった。その中でも、比較的本研究に近いとされるものが谷口（1991）である。谷口（1991）では、1対1の形で行われる日本語授業の学習者にダイアリーを記述させ、その内省的な記述を調査している。ここでの学習者は自己の学習に対して、強いモニター能力を所持している。そして、日記を記述するという行為がそのモニターを啓発する役割を果たしていると分析している。

本研究でのダイアリーも、その目的の一つとして、学習者の自己モニターの啓発が上げられる。この研究レポートで取りあげるのは日本語の授業に対する学習者の視点と、教師の視点の違いである。教室活動で、教師と学習者はそれぞれ同一の活動、空間を共有する。しかし、その同一の空間、活動であっても学習者によって、様々な受け取り方があるだろう。そして、それ以上の差が学習者と教師の間に存在している。教師は、学習者がどのように授業を認識しているかについては、あくまでも学習者の態度などを基に推測することしかできない。本研究では、学習者と教師のダイアリーを通して、教師と学習者それぞれが一体どのように授業を認識しているのか、教師の認識と学習者による認識はどう異なっており、またそのことから、教師はどのように次の授業に取り組んでいったのかを分析する。

当然、その分析は日記という学習者による学習者の主観的な記述を、教師という学習者とはまた異なる主観的な視点による分析で行うために、日記研究全般に共通する「一般化

がしにくい」といった問題点が挙げられる (Fry 1988)。しかし、本稿での一例を基にして、学習者にダイアリーを記述させることによる教師への利益 (そして、それは学習者に還元されなければならない) を探ることにより、学習ダイアリーを記述させるという行為の有効性を論じる。

## 2. 2005年度夏季日本語教育実習

2005年度夏季日本語教育実習、及び筆者の担当したCクラスの詳細については別の2005年度夏季日本語教育実習報告書を参照して欲しい。ここでは、本稿における学習者の区別をあげるに留まる。

学習者名	実習出席日 <sup>1</sup>
A	10、11、12、17、18、19
B	10、11、12、17、18、19
C	10、11、12、17、18、19
D	11、18、19
E	11

## 3. ダイアリー

実習初日の授業時に、学習者にダイアリーを記入するための用紙を配った。ダイアリーは学習者の母語、つまり英語で記述してもらった。担当クラスの学習者の日本語能力は中級レベルであり、内面的なことを詳細に記すために十分ではないと考えられたためである。そして、ダイアリーに記す例として、下記の五つを挙げた。

1. 何を学んだのか
2. それをどう活用するのか
3. 問題はなんだったか
4. 問題を解決するために何をしたか
5. 何か障害となることはあったか

これら五つはあくまでも例であり、基本的には当日の授業に関することならば、どのようなことを書いても、またどのような形式で書いても問題ないことを告げた。ダイアリーには当日の自己評価も100点満点で付けてもらった。学習者から次の授業時にダイアリーを回収し、最後の授業に関しては学習者に郵送してもらった<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> 13日に課外活動を行ったが、その日は除いている。

<sup>2</sup> ダイアリーの多くは回収出来なかった。

また、学習者だけではなく、教師も毎授業事に同様のダイアリー（資料2）を記述した。これについても、出来るだけ思ったことを書くようにするため教師の母語である日本語で記述した。そのダイアリーは授業時に学習者のダイアリーを回収するときに、学習者に配布した。当然、教師のダイアリーは学習者に読ませることが前提で書かれていないため、学習者には難しくて読めないことも多かった。しかし、これは学習者のダイアリーだけを一方的に回収するのではなく、自らのダイアリーも公開することにより、教師と学習者の立場を対等にするという目的のためであった。

#### **4. ダイアリー<sup>3</sup>と分析**

教師のダイアリーについては、全授業分あるが、学習者のダイアリーは回収出来ていないものが多数ある。また、回収出来た場合でも、記述してある内容がその日に行ったことだけが羅列してあるのみで分析の対象とはなり得なかったものもある。さらに、「《》」は元のダイアリーに筆者が適宜加えた文章を表し、「（）」は元のダイアリーに既に書き込んであった内容である。

##### **4-1. 8月10日**

この日は、コンピューターを使った日本語入力の方法、Eメールの書き方を行った。

##### **4-1-1. 8月10日のダイアリー**

教師のダイアリー

- ・ 漢字は全員難しかっただろうが、オンライン辞書を使ってある程度の内容は理解していた。
- ・ Aさんは、日本語入力はかなり出来ていた。文章の長さ、スピードが一番だった。Bさんは二番目で、日本語は性格に入力していたが、少し時間がかかった。読みに関しては、二人一緒ぐらいでCさんは少しおそかった。ただ、文章の内容を想像をはたらかせてよく読めていたと思う。
- ・ インターネットについては全員ある程度は興味もってくれていたと思う。疲れていたのか時々Bさんが、つまらなそうな感じに見えた。次からは、ただインターネットというのではなく、目的を持った活動を取り込みたい。

Aのダイアリー

- ・ あまり新しいことは学んでいない。
- ・ 自分の持つスキルの良い訓練が出来て、知識、能力を補強することが出来た。

---

<sup>3</sup> 学習者のダイアリーは全て筆者によって日本語に訳してある。

#### Bのダイアリー

- ・ オンライン辞書の使い方は、漢字を調べるのに非常に便利だ。
- ・ 授業は難しすぎるわけではなかったが、漢字の読みは大変だった。
- ・ 今日の授業に関しては理解したと感じたが、授業中にノートなどをとっていないため、あまり勉強した気がしない。
- ・ コンピューターを使って学ぶことは、《今までの経験と》非常に異なり、これからしつかりとやっていかないといけないことだろう。ペンと紙を使った勉強に慣れており、それは確かに良い方法だが、様々なメディアに触れることは大切で、特に日本にいる今は、コンピューターを利用することはとても有意義だと思う。
- ・ 今日はあまり元気ではなかったけれど、それなりに頑張ったと思う。明日はコンピューターでの学習により積極的に取り組みたいと思う。

#### Cのダイアリー

- ・ 自分の日本語能力がもう少し高ければ、今日のEメールの練習はより効果的なものであったと思う。
- ・ こういった自由な文体で書くという行為は、非常に難しい。
- ・ もう少し、構造的なアプローチで言語を学ぶ必要があると思う。系統的に言語を見ることが、言葉とそのコンセプトを理解するのに最も良い方法だと思う。

### 4-1-2. 分析

10日は、当初予定していたことを全て行うことが出来ず、授業ではかなりの部分を省略している。時間が足りなかった理由として、学習者のレベル差が顕著に見られたことが挙げられる。AとBに比べると、Cは全体的に日本語能力が低く、教師によるサポートを要した。

最初の授業ということもあり、教師の立場として学習者達の様子が非常に気になった。『疲れていたのか時々Bさんが、つまらなそうな感じに見えた。』と記しているように、学習者がどのような様子で授業を受けているのかは教師への重要なフィードバックの一つである。しかし、Bのダイアリーを読むことで、つまらなそうな感じに見えたのは、元気がなかったからだと分かり、その後の励みとすることが出来た。さらには、「明日はコンピューターでの学習により積極的に取り組みたいと思う。」というコンピューターを利用した授業への肯定的な記述も、翌日の授業を考える際に大きな励みとなった。

しかし、Cの記述にあるとおり、Cは『構造的なアプローチ』で言語を学ぶことが、自らのスタイルとしており、Cにとっての10日の授業は難易度が高いだけでなく、スタイルとして合わないということが分かった。これは、翌日以降の授業への大きな課題となった。

## 4-2. 8月11日

この日は、インターネットでの買い物の仕方（サイトの紹介など）、WebUD を利用した読解練習を行った。また、前日3人だった学習者が5人に増えている。

### 4-2-1. 8月11日のダイアリー

#### 教師のダイアリー

- ・ 今日が昨日と違う点として、DさんとEさんが加わったことだ。
- ・ 《学習者の増加は》授業には悪い意味での影響はなく、むしろ人数が増えたことでやりがいが増えた。
- ・ 価格ドットコムサイトで、型番を入力して最安値を見るという、基礎というか、日本人には常識的だが、みんな知らなかったようで喜んでくれた。
- ・ 今度は、Yahoo! グルメのサイトを見て、各自住んでいる場所から何が注文出来るかについてやった。ここまでは、日本に住んでいて知っているのと楽出来ることだった。こういうことはやり易い上に、実用的なので気をひきやすい。
- ・ 時間の関係で《WebUD を使った読解は》大きな目的なしで、ただ長文を読むにとどまってしまったのは、正直つまらなかったかもしれない。
- ・ コンテキストを外した状態でいくら勉強しても、それはとても身に付きづらいと考える。そして、とにかく教室活動はそうなりがちで、分かりやすい説明とは何か、を追い求める形で腐心する。そうではなく、現実を可能な限り、そのままの形で取り込み、そこで学習が起こり易いようにつとめるということが今回の実習のテーマである。《略》しかし、Cさんはもっと段階をおった学習をのぞんでいるようである。ここは独り善がりにならないようにバランスをとっていかないといけない。
- ・ 日本語を使ってやっていること（楽しいこと）を用いて、学習者に学習してもらおうという視点は、現時点では間違っていないはず、ただ今のところそれが教授活動にまで昇華されているかについてはかなり疑問である。

#### Aのダイアリー

- ・ 実践的な点において、今日のオンラインショッピングや語や漢字の翻訳サイトは非常に便利である。関連する漢字のほとんどは、覚えるのにもっと時間がかかるだろうが、とても良い導入だったと思う。

#### Bのダイアリー

- ・ 今日の授業が終わって、コンピューターを使った日本語学習にもっと自信が出てきた。英語以外の言語でウェブにアクセス出来ることは、非常に頼もしい。
- ・ 一番の障害は漢字の読みだ。

### Cのダイアリー

- ・ 言語的な観点から言えば、今日はほとんど学んでいない。こういった自由な発話での練習を活かすことが出来ないのは、主に自分の日本語能力が低いせいだ。《略》自分の日本語能力が低いせいで、言語的な成長のあまりない練習となっている。
- ・ やはり、私にはもっと構造的な方法での日本語学習が必要なのであろう。

### 4-2-2. 分析

10日のCのダイアリーを読んで、教師は自らの日本語教育観についてダイアリーに長々と記している。結果としてみれば、Cは『私にはもっと構造的な方法での日本語学習が必要』だと判断しており、前日のCによる指摘は授業の中では具体的な形で活かされていない。あくまでも、教師のダイアリーに書かれていることは、自己肯定となっている。

しかし、この自己肯定は自らの授業内での活動を見直す一つの指針となっている。そして、その指針はあくまでも自らの指針でしかないので、学習を行う当事者である学習者から異論があると、それを真摯に受け止める姿勢も必要である。少なくとも、Cのこのような考え方は、ダイアリーを通して知らなければ、ずっと知ることがない可能性があり、そのような意味でもダイアリーの存在は大きかった。

一方で、Bは10日より積極的に授業に参加してきており、またダイアリーの記述もそれを肯定する内容である。10日にダイアリーを記すことによって、そのような肯定的な思考へと変わったのかについては分からないが、少なくともダイアリーを記すことによって、自己の学習をモニターすることにつながったことは否定出来ない。

### 4-3. 8月12日

この日は、筆者の修士論文に使用するためのデータ収集を行った。図形の位置、色、形を支持するというインフォメーションギャップタスクを用意し、それを行ってもらっている。

#### 4-3-1. 8月12日のダイアリー

##### 教師のダイアリー

- ・ 修論用の実験タスクをやってもらった。時間の都合上、図形のインフォメーションギャップしかできなかったが、やり始めると、楽しいという意見が聞けて（特にCさんから嬉しかった）良かった。
- ・ 個人的には、《語彙や文型などは》必要と感じて導入し、そしてそれを使うというやり方は理想だと思っている。

- ・ 《タスクは》Cさんについては少し難しいかもと（失礼ながら）思っていたが、とてもよく出来て驚いた。こういったタスクをやるといつも思うが（なら早く驚かないようになればいいのに・・・）、達成するという目標があると、だらだらとしたものよりずっと能力が伸びていると思う。こういったことが自信にもつながるのではないだろうか。

#### Aのダイアリー

- ・ 今日の授業はとても楽しかった。
- ・ 最初は《タスクは》難しいんじゃないかと思ったが、実際は思ったほどでもなかった。

#### Bのダイアリー

- ・ 今日はとても楽しい授業だった。
- ・ 絵を見て話しているときに話し手が見えない<sup>4</sup>という問題は、図形の位置が自分の満足がいくくらいまでハッキリするまで質問をした。自分が話しているときは、ゆっくりと話し、またははっきりと大きな声で話すように心がけた。そして、説明を進める前に、聞き手が大丈夫かどうかを尋ねるようにした。

#### Cのダイアリー

- ・ 今日の授業は言語的にも有益で、楽しかった。タスクの難易度と自分の日本語能力がちょうどよく合っていた。そして、なによりも楽しかった。
- ・ 単純なコンセプトを自由なスタイルでコミュニケーションすることで、日本語能力を総動員することが出来て、非常に有益であった。

### 4-3-2. 分析

前日までのCのダイアリーから、Cがあまり授業に満足していないという感想を抱いていると判断した。授業中のCの様子は、確かに他の学習者に比べると日本語能力が低いと、色々まとまったり、手こずったりする傾向があった。しかし、性格が真面目であるため、一生懸命やっている印象を受けていた。したがって、Cが抱えている問題はあくまでも、C自身の日本語能力の問題であって、授業に関しては難易度以外については大きな問題がないと判断していた。しかし、実際は授業のスタイルとC自身の学習スタイルが合っていないという問題があったのである。

この日の授業については、それまでとは雰囲気は変わるものの、それでもあまり文法的に系統だった活動ではなかったため、Cにどのように受け取られるかが一つの課題となっていた。しかし、いざ活動を初めて見ると『楽しいという意見が聞けて（特にCさんから嬉しかった）』安心をした。ここで問題となるのが、ただ楽しいことを是とすることは出来ないと言うことである。つまり、楽しいだけで良いならば、授業中に様々な遊びをすれ

---

<sup>4</sup> タスクは、お互いの姿が見えないように行った。

ばいいことである。しかし、あくまでも日本語の授業であるために、楽しいというだけでなく、なんらかの形で日本語の習得に結びつかなければならない。

しかし、学習者のダイアリーを見ると、それぞれが楽しいと述べているだけでなく、どういう風にタスクを進めていったのかというストラテジーなどが書かれており、言語の学習という面から見ても満足していたことが分かり、安心した。こちらの意図はどうであっても、学習者がそれをどのように思ったのか、そこから何を学んだと感じたのかは非常に大きな課題である。

#### 4-4. 8月17日

12日に行ったインフォメーションギャップタスクを、口頭ではなく、コンピューターを利用したコミュニケーション（CMC）で行ってもらった。また、各自がそれぞれ少しずつ異なる絵を見て、コミュニケーションを通じてほかの人の絵との違いを探すというジグソータスクもCMCで行ってもらった。

##### 4-4-1. 8月17日のダイアリー

###### 教師のダイアリー

- ・ これは仕方ないのかもしれないが、CMCは声を出さない為、盛り上がり欠ける。
- ・ 《文字を》入力することで正しいつづりで日本語を覚えているかがわかる。それは特に漢字変換すると顕著である。ただの **writing** の練習よりはとっつき易いと思う。実際にEメールのタスクよりも文章量が多かった。
- ・ この《授業の》あとにCMCのデータを使って復習するのも良いかもしれない（明日やろうかな）。そうでなければ、ただやっただけになる。自分たちのデータを、すぐ教材に出来るのもCMCの強みのはずだし（やっぱ明日やろうかな）。
- ・ CMC導入のポイントとして、外への間口が広いことが挙げられる。道を行く人（見知らぬ人）に話しかけてコミュニケーションをとるのは難しいが、CMCならそれが容易に可能である。

###### Aのダイアリー

- ・ 今日の授業は、12日の授業に面白い変化を加えた授業だった。
- ・ 《ジグソータスクはインフォメーションギャップタスクに比べると》とても難しかった。更に厄介なのは、コンピューターのメッセージは一度にひとつのテキストしか送ることが出来なくて、しかも音声でのコミュニケーションは禁止されていた。それにもかかわらず、(すべてではないが) いくつかの絵の間違いを見つけることが出来た。

###### Bのダイアリー

- ・ 今日の授業は、先週《12日》の授業と比べられる活動をしたので面白かった。自分としては、コンピューター上で図形の描写をするほうが口頭で行うよりも簡単だったが、それは先週すでにタスクについては練習していたからかもしれない。
- ・ 文章の形で相手の発話が見られるということも、タスクを簡単にした要因かもしれない。おかげで、何か見逃していないかと何度も確認することが出来た。
- ・ 省略した文章を打つことが難しく、毎回文章を全部打つことはとても時間がかかった。
- ・ 全体的に、とても楽しい授業だった。面白かったし、すこし難しいところもあり、それはもちろん良い意味で、である。

#### Cのダイアリー

- ・ タスクはよく考えられていたが、コンピューターを使うことで文字での会話となり、より難易度は上がっている。特に、入力に関してはもう少し練習をする必要があるだろう。性格に入力していないため、入力した仮名が自分の思うような漢字にあまり変換されなかった。
- ・ 金曜日《12日》の授業と同じように、不完全ではあったが、自分の日本語能力を総動員することが出来て、有意義であった。

#### 4-4-2. 分析

12日のタスクの評判が良かったため、今回の授業も学習者に大きな不評を抱くことはないと考えていたが、CMCを利用するために若干の不安があった。AとCは、コンピューターを利用することで、タスクの難易度が上がったと評価する一方で、Bはタスクが簡単になったと評価した。当然『先週すでにタスクについては練習していたから』という可能性はあるが、CMCの利点を自ら見出していこうとする姿勢は学習にはとても有用である。また、CMCのマイナスの面についても、色々と述べつつも、全学習者が前向きに取り組んでいると言うことが大きな励みとなった。

#### 4-5. 8月18日

前日(17日)に行ったジグソータスクを、今度は口頭で行った。そして、見学で来られていた先生に、インフォメーションギャップタスクの説明する役をやっていただいた。最後に、ある単語をその名前を言わずに、他の表現で表して、当ててもらおうという活動を行った。

#### 4-5-1. 8月18日のダイアリー

##### 教師のダイアリー

- ・ Dさんが今日からまた来られるようになっており、嬉しかった反面タスクでは急に入っ

て貰うことが出来ず、《別室で》ピザの注文を頼んだ。

- 《見学に来られた》先生に協力をあおいで、インフォメーションギャップのインフォメーションホルダーとしてやってもらった。これが想像通り、学習者はほとんど分からず、出来なかった。そこで、本来は学生に先生に分かる語彙（表現）を用いてもらうような、質問をしてもらおうとしたが、そこでDさんが戻ってきたので、早く終わらせるために復習のような形でもりこんだ。
- 教室内でのコミュニケーション（限られたコンテキスト）と教室外でのコミュニケーション（100%純粋ではないが）の違い、更に言うなら教室外でも分かるようにするためにどうすればよいか（たとえば、知っている語彙を相手に伝える）などのストラテジーにつなげたかった。
- 《単語を他の表現で伝える活動は》単語が簡単すぎて、2つ3つの説明で分かってしまうのはまずかった。前日に、どの程度の難易度にするかまよい、簡単なものしか用意しなかったのが悪かった。授業を通して、教室内で言語を学ぶのではなく、あくまでも教室活動は言語習得のきっかけでしかないと言った考えを通してきた。だからこそ、教室外との接点が重要なのだが、そこについてはあまり明確ではなく、まずかったように思う。こちらの意図をどう伝えるか、具体的にになりすぎないようにつめていきたい。

#### Bさんのダイアリー

- 今日の授業は、良い復習であった。
- お互いの会話を聞き取ることは簡単だが、母語話者の場合は使われる表現が違うために、非常に難しい。しかし、母語話者が簡潔に表現してくれたら、非常に楽に理解出来た。
- 相手の使った単語が分からないときには、その単語と違う単語に変えることで会話が出来ようになる。最後に行った活動《単語を他の表現で伝える活動》は、そういう時に非常に役立つ。
- 過去の授業で習ってきた語彙や表現を沢山利用することが出来て、今日の授業はとても有意義だったし、自信にもなった。日本語で何かを表現することもいまならすごく自信がある！
- 昨日の授業での《CMCでのタスクの》会話のプリントアウトを訂正してくれたことも、すごく役に立った。間違えることで学ぶという方法は、とても良い学習方法だ。

#### Cさんのダイアリー

- 今日の授業は、言語能力を延ばすという意味で今までの授業の中では一番良かった。これまでのタスクでの経験によって、自分の言語能力を（時には超えて）利用でき、また授業時の《昨日のタスクの》フィードバックからは、自分がまだ完全に正しい日本語を使っているわけではないことを思い知らされる。
- 自分の日本語能力がもっと高ければ、このタスクからもっと多くを学ぶことが出来ただ

ろうが、今の能力でも位置関係に関する日本語は上達した。

- ・ 最後の《見学の先生によるインフォメーションギャップタスク》はいつか自分が普通のスピードの日本語を理解することが出来るのではないかという自信につながった（先生が普通のスピードで話したかどうか分からないが）。

#### Dさんのダイアリー

- ・ 先生の早い日本語は難しい。
- ・ お互いに理解出来ないという感覚は、心地良いものではない。

#### 4-5-2. 分析

17日の教師のダイアリーで、再三にわたりCMCの会話記録を利用することを示唆していたが、実際に利用してみると、『昨日の授業（CMCでのタスク）での会話のプリントアウトを訂正してくれたことも、すごく役に立った。間違えることで学ぶという方法は、とても良い学習方法だ。』『昨日のタスクの）フィードバックからは、自分がまだ完全に正しい日本語を使っているわけではないことを思い知らされる』と、おおむね良い評価を受けている。この日で何よりも収穫があったと感じたのは、授業後のダイアリーでは『見学に来られた）先生に協力をあおいで、インフォメーションギャップのインフォメーションホルダーとしてやってもらった。これが想像通り、学習者はほとんど分からず、出来なかった。そこで、本来は学生に先生に分かる語彙（表現）を用いてもらうような、質問をしてもらおうとしたが、そこでDさんが戻ってきたので、早く終わらせるために復習のような形でもりこんだ』という形で、教師の意図通りの活動が出来ず、中途半端に活動を終えてしまったのだが、その活動の意図が『相手の使った単語が分からないときには、その単語と違う単語に変えることで会話出来るようになる。最後に行った活動（単語を他の表現で伝える活動）は、そういう時に非常に役立つ』という記述や、『最後の（先生によるインフォメーションギャップタスク）はいつか自分が普通のスピードの日本語を理解することが出来るのではないかという自信につながった（先生が普通のスピードで話したかどうか分からないが）』という記述から、学生が教授活動の意図を汲んでいたということが分かった。

教師は、授業活動を一つの線で結びつけるように行っていきたいが、活動が多い場合はそれぞれの活動を結びつけるものを説明することを怠ってしまうことが多い。しかし、そういった説明がなくとも、学生が自らそれぞれの活動をつなぐ線を考えて、理解していくことが出来るのである。そして、そのような場合に、それぞれの活動がうまくいくと、学生は自らの能力に自信を持つようになっていく。

#### 4-6. 8月19日

19日は実習の最終日で、いつもよりも授業時間が短かった。漫画の読解を行った。ド

ラえもんを利用して、主にオノマトペなどの導入を行った。

#### 4-6-1. 8月19日のダイアリー

##### 教師のダイアリー

- ・内容的に面白くないと個人的に嫌なので、大感動のドラえもんにした。文字だけのものよりも、絵がある分、分かり易く、しかも口語が多いので、実際の会話につかい易い。また、オノマトペも多く、文字だけの文章には出てきづらいことがある為、そういったことを中心にやろうと思った。
- ・単語リストについては、結構大雑把に作った。まあ、読む際の手助けになれば良いと思ったからで出てくる単語を覚えて欲しいという意図はない。
- ・全体的に難しかったみたいで、二話用意したが、一話しかできなかった。
- ・オノマトペとかをまとめてみたが、統一感もなく、またどこを重点的にしているのかもなかったのが、淡々として授業になってしまった。
- ・マンガを教材とすることで、学習スタイルの幅は広がったと思うので、継続的な学習をしていくためのクラスにはなったんじゃないかと思う。何かの文型なり、文法項目を入れこんで、そこに注目させるという手もあるが、そうすると作品の流れをそいでしまうことになるので、必ずしもそれが良いとは言えない。いくつか、例文を用いつつ導入し、スムーズに読み進めていくのがよいのかもしれない。ただ、それでも語彙の問題は残るが・・・。

##### Bさんのダイアリー

- ・今日は授業でマンガを読んで楽しかった。
- ・《オノマトペのような》を知ることでマンガを読むのは少し楽になったが、それでもいくつか分からない単語があった。《略》単語が分からないという問題は、絵から推測して理解することで簡単に克服出来た。

##### Dさんのダイアリー

- ・あまり授業に出られなくて申し訳なく思う。本当に自分の日本語をもっと上達させたいと思っているし、この授業でもっと勉強する気になった。
- ・《マンガに出てくる表現は》日本人とのカジュアルな会話を理解するのに役立つ。日本のポップカルチャーや、友人同士のカジュアルな会話などに頻繁に使われるからだ。
- ・一人で勉強していくときに、最も大きな障害となるのは発音の書かれていない漢字を覚えるときだ。

#### 4-6-2. 分析

この授業の前の時間にも、長文の読解をしており、学習者は多少疲れていたようであった。そして、前日までのコミュニケーション活動から、あまりお互いにコミュニケーションを取ることのない読解に移ったことで、『淡々として授業になってしまった』。

オノマトペが、日本語の中で果たす重要な役割について、色々と説明しようとしたが、これも時間の関係であまり出来たわけではない。それでも、学習者は『(マンガに出てくる表現は)日本人とのカジュアルな会話を理解するのに役立つ』と、積極的に役立てる場面を模索している。また、最後の授業と言うこともあり、今後学習者がどのように日本語を勉強していきたいかという記述が目立ち、この授業を通じてさらに日本語を学習していく動機が高まったのではないかと、考えられる。18日の教師のダイアリーにあるように教師は『授業を通して、教室内で言語を学ぶのではなく、あくまでも教室活動は言語習得のきっかけでしかない』というビリーフを持っていた。それを明言することなく、学習者が今後の学習についてダイアリーに記してくれたことは、この授業に対する学習者の肯定的な評価と受け止めて良いのではないだろうか。

#### 5. まとめと課題

ダイアリーを記すということを通じて、教師と学習者でお互いの授業に対する感じ方、そして考え方が比較出来る。また、ダイアリーを記すことで、授業に対してより深く考えるようになり、教師はどのような意図を持って教室活動を行ったのか、また自らはどのような形でその活動を活かしていくことが出来るのか、といったことを考えるようになる。そして、それは学習者だけに言えるのではなく、教師も同様である。そして、教師の考えと、学習者の考えが異なることも珍しいことではなく、またそれは授業を表面的にながめるだけでは分かるわけではない。学習者の書いたダイアリーを通して、初めて「日本語を学習する気がない」のか、それとも「教師のスタイルと合わない」のか、といった判断が出来、またそれに対する解決法を模索することも出来るのである。

「学習者中心の教育」ということが言われているが、その為にはまず自分がどのような活動を求めているのかを活動を行いながらはっきりさせていき、その上で学習者がどのようなことを求めているのかを知り、今後の授業を組み立てていくことが求められる。今回の実習では、ダイアリーを交換してはいたが、学習者に教師のダイアリーを読むことは非常に困難であり、結果的に一方的な情報提供となってしまった。その是非については、現在のところ分からないが、少なくともお互いの情報提供では一体どのような結果になるのかという課題は残っている。さらに、今回の学習者は日本の学校での英語教育を担当する英語アシスタントという教師の立場を理解した存在であるため、ダイアリーについてもより内省的に深く、そして詳細に記したという可能性は大きい。その為に、今回のケースを他のケースに直接当てはめることは出来ない。

しかし、ダイアリーによって、学習者の学習に対する姿勢、そして授業に対する考え

を知ることが出来るということは、授業を組み立てていく上での貴重な情報であることは疑いない。

参考文献

- 谷口すみ子 (1991) 「第二言語学習過程に関する内省的研究：日本語学習者の日記分析」 *The Language Teacher* XV : 1 , JALT, 11-16
- 伴紀子 (2005) 「学習ダイアリーを用いた学習の意識化への働きかけ」 南山大学日本文化学科論集 第5号, 南山大学日本語学科, 7-18
- Fry, J. (1988) Diary studies in classroom SLA research problems and prospects. *JALT Journal*. Vol.9. No.2 158-167